

授業研究の質的転換を目指す ～行動統一～

平成29年3月に告示された新学習指導要領では、学習内容重視のカリキュラムから、資質・能力重視のカリキュラムへの大きな転換や、育成したい資質・能力を明確にした、「主体的・対話的で深い学び」が実現された児童の姿を目指した授業づくりが求められ、授業研究の質的転換が急務になっている。
そこで室戸小学校では学習指導要領改訂の趣旨を理解し、本校研究主題や、「主体的・対話的で深い学び」の実現、新学習指導要領を見据えた教育実践にチャレンジするため、新たな研究内容を設定し、授業研究の質的転換を目指している。

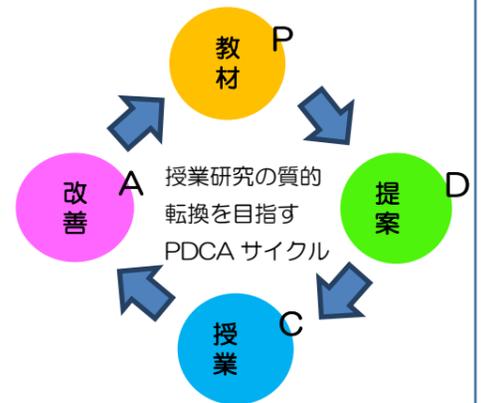
現在、上から3項に特化して、授業研究の質的転換を進めている。



教材研究

算数科で育成すべき資質・能力の共通理解を図る

- 個人: 新学習指導要領の趣旨理解
教材研究会: 数学的な見方・考え方の明確化と教材の分析
指導案作成: 児童の実態把握、授業展開の構想
指導案検討会・模擬授業: 授業の具体化

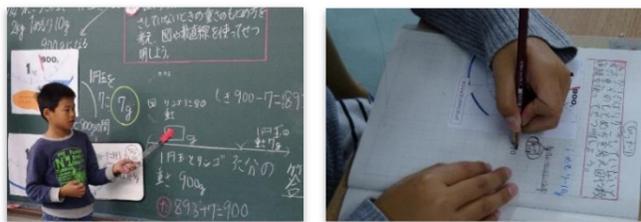


提案授業

資質・能力の育成を目指した授業の具現化

- 授業: 確立された授業の視点をもとに参観し、児童の学びの事実から授業を捉える

第3学年 算数科「重さのたんいとはかり方」(東京書籍) 全 10 時間
単元の目標: 重さの測定などの活動を通して、重さについて単位の意味と測定の原理を理解し、重さの測定ができるようにするとともに重さについての量の感覚を身に付けられるようにする。
授業の視点: 「『重さを求める問題も、目盛りと目盛りの間は 10 等分のまとまりになっている。』という既習(長さやかさ)を用いて解決しようとしていたか」
本時(9/10)は、はかりの目盛り丁度をさしてないりんごの重さも、目盛り丁度にはりを合わせるために1円玉(1g)を使うと、はかりの目盛りが丁度になってりんごの重さが求められるという日常生活と算数とを結び付けた問題を設定した。本単元は、重さの測定や量感を身に付けることがねらいではあるが、目盛りと目盛りの間の仕組みにも目を向けさせることにより、数の構成との関連を図った。はかりの目盛りと目盛りの間を拡大した図や数直線から数の関係を式に表し、その式の意味を、筋道を立てて説明することで、量が数に置き換えられ、具体的な量の問題が数の計算によって処理できるよさを実感させることをねらった。



第6学年 算数科「資料の調べ方」(東京書籍) 全 10 時間
単元の目標: 代表値としての平均やちらばり、度数分布について理解するとともに、目的に応じてそれらを用いて、統計的に考察したり表現したりすることができるようにする。
授業の視点: 「目的に応じて、データを整理し、特徴や傾向に着目し、判断し、考察することができていたか」
本時(8/10)は、単元末の発展・活用として、児童の生活に身近な「お小遣い」を題材に、「お小遣いを値上げしてもらいたいのび太君はどうやってお母さんを説得したのか」という問題を設定した。相手を説得するための統計資料を自分で作成する活動を通して、いろいろな統計処理の方法で的確に判断できる力を付けたいと考えた。また、同じ資料でも階級が異なる柱状グラフを作ると、見え方や読み取る傾向が異なることを体感し、自分ならどのように説得するのかを考え、自分と友達の説得方法を比較したり、批判的に考察したりするなどして、よりよい説得方法を見出していくことを大切に授業を展開した。



授業分析

学びの事実から授業を振り返り、授業分析の論点を焦点化

- 研究協議(授業リフレクション): 授業の視点の妥当性、協議の論点の設定、具体的な改善策の追究、助言者からの指導助言

改善授業

授業の質的向上

